クロスロード新聞

第9号

2007 年2月28日

春はもうすぐ！
新しい年度に向けて
この先の道は右?左?

発行元：108-8345　港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部　吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局

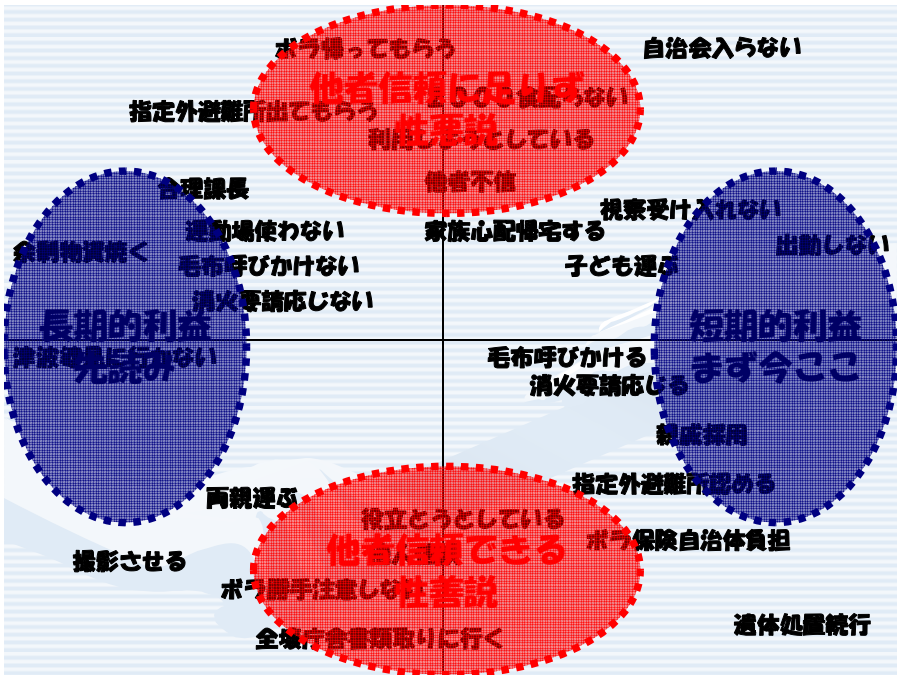
静岡県「大」特集！！

　ファシリテータの皆さんこんにちは。暖かかった今年の冬もすぎ、いつの間にやら春に突入の気配ですね。
　さて、今号は静岡県のファシリテータの皆さんからたくさんの投稿をいただきました。「大」静岡特集です。
　まずは静岡県の3防災局の実践をご紹介し、それから東海地震編の作成経過をご紹介します。また、11月に静岡大学で行われたクロスロード静岡大学編の紹介を静岡大学学生の小柳さんとご指導くださった小山先生から報告いただきます。

まずは板坂孝司さんによる静岡県防災局の紹介から

　以前、ファシリテータの集いでも紹介させていただきましたが、静岡県には防災専任の出先機関が４つあります。下田市を中心とした伊豆半島南部を担当する賀茂地域防災局、沼津市、御殿場市、富士市等の県東部を担当する東部地域防災局、静岡市周辺の県中部を担当する中部地域防災局、そして、浜松市、磐田市等県西部を担当する西部地域防災局です。これら４つの地域防災局が県庁の防災局と連携し、平常時、非常時の災害対応を行うことになっています。
　防災政策は総合政策であり、各方面の技術や知識を活用することも必要とされるため、それぞれの地域防災局には各方面から職員が集められています。今回原稿を執筆した4人も、中部地域防災局の安藤は教育委員会から派遣されている教員、同じく中部の天野は看護師、西部地域防災局の小林は静岡県警察からの派遣であり、板坂も土木の技術吏員です。静岡県のクロスロードは、このように多方面の専門家がそれぞれの得意分野を活かすような形で発展しており、急激に裾野を広げているところです。
　今回の特集によってクロスロードサポーターの皆さんに何かのヒントとなれば幸いです。

クイズです！下の図の意味は?最後のページに回答が！



目次

静岡県「大」特集！！ 1
静岡県防災局の紹介 1
謎の図の正体は? 1
クロスロード看護編 2
西部地域防災局での実践 3
クロスロード教員編 4
クロスロード東海地震編 5
進級者発表 5
こんなところに心理学(10) 6
ぶつかると・・・ 6
クロスロード静岡大学版 7
クロスロードで適性診断 8
人のふり見て 8

クロスロード次号のご案内

発行予定日：4．22
新年度もクロスロードで始めよう！

責任編集
- チームクロスロード
- クロスロード・サポーター
- SPECIAL THANKS:
  高知県危機管理課
  小溝智子（漫画企画）

中部防災局の実践：看護師編

私は、昨年4月から静岡県中部地域防災局に配属された看護師です。防災の中の医療救護を主に担当しています。ここに来て「クロスロード」を実際に体験してみて、これは看護師の防災意識向上にピッタリのツールだと直感しました。なぜなら、「看護という仕事は、災害時次々と判断を下していかなければならない職種である。」からです。また、ゲームを通して災害時のできごとを擬似体験しておくことは、発災時大きな役割を担う彼女（彼）らの助けに必ずなります。看護編を作成して是非、医療現場に広めたいと思いました。

看護編は、現在10例作成しています。阪神・淡路大震災当時の看護師の体験を研修資料や書籍から掘り起こしたり、自分自身が新潟中越地震の現場に入ったときの経験などをもとに、看護職として感じたであろうジレンマを収集し、オリジナルの「クロスロード」として作成しました。何度も試行錯誤を繰り返し、立場の設定や内容の表現を吟味しました。作成途中で、看護編は内容が心理的に大変重く、ゲームを看護一色にすると「ジレンマ」から「ストレス」になってしまう危惧を感じました。

そこで、すでに市販されている神戸編と市民編の中からいくつかの問題を、条件や当事者の立場を変えて組み入れる事で、全体のバランスを整え提供することを考えました。

吉川先生から『職務特定のクロスロードは、他に要介護者版などもありますが、本当に仕事直結だとつらくなられる方もあるようです。私どもも、別の一般の内容も含めて、とおすすめしております。』というご意見をいただき、意を強くしました。

【実践に向けて】

1　静岡県看護協会

作成した「看護編」を、静岡県看護協会主催の防災研修に採用してもらうため、昨年10月に下記の目標と効果を携えプレゼンテーションを行ないました。

目的：　1 阪神・淡路大震災、新潟中越地震の教訓を、防災ゲームを通して考える事で各自の防災意識を高める。
2 緊急時の状況予測能力・状況判断能力・意思決定能力の向上を図る。

効果：　ゲームを通じ直面する困難に対して、他者の考えや意見を聞くことで、自分には無かった新たな考えや知識を得、目的1，2を達成する助けになる。

看護協会担当者の反応は大変に良好で、平成19年度9月の研修に採用する事を即決していただきました。対象は300人の看護師です。

2 静岡県健康福祉部健康増進課

本年１月５日健康福祉センター・市町・地域防災局に勤務する保健師・栄養士等、災害対策に関わる地域保健従事者　約50名を対象にプレゼンテーションを実施した結果、２月２７日の「災害対策研修会」での実施が決定しました。こちらの対象者は保健師をはじめとする福祉関係者であるため、要援護者編と高知市健康福祉部編を使用することにしました。ただし「クロスロード」は、二つのメイン講演会の終わりに入れ込んでもらったため時間が短く、３問のみを実施し解説と意見交換に時間を割く形式にしました。これにはクロスノートの活用を考えています。

今後の実施の場として、病院職員を対象としたいため、県の病院協会にも声をかけています。

状況予測能力・状況判断能力・意思決定能力は、災害などの困難に遭遇したときに職種や立場を超えて、人として必要な総合力なのだと思います。

「クロスロード」は、様々な立場や経験を持つ人の顔をみながら、その人の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりする相互調整を大切にしながら、解決策を見つけていく知恵や知識を蓄えていくゲームであると理解しています。それぞれが迷いながら自己決定している姿を自分自身に重ねて感じられることも、クロスロードが多くの人に受け入れられる理由だと思います。

阪神・淡路大地震後、医療現場における災害訓練といえば、「トリアージ」と「非常食などの炊き出し」です。そろそろ次のステップに踏み出す契機として、「クロスロード看護編」の研修を通して、医療現場の防災意識を少しずつでも変えていけたらと思います。そのために、「クロスロード看護編」の実践、問題の吟味・新たな問題の作成を続けていきたいと考えています。

（静岡県
中部地域防災局
主幹　天野歌子さん）

看護編問題例

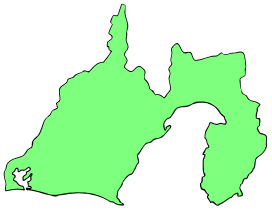
**あなたは
被災病院の責任者**

地震発生３日目、入院病棟が傾きかけているという噂が流れ始めた。入院患者も職員も不安な顔をしている。しかし、確かな情報はない。入院患者をどうする？

避難させる？

Yes.（避難させる）
No.（ここにいる）

西部地域防災局内クロスロード紹介



市町の防災担当者に対して実施方法の説明をかねて、研修会という形でクロスロードを実施しました。防災担当の職員ということで、神戸編･一般編の設問で行いましたが、考え方が似通っているためか、「イエス」「ノー」が二分することは余りありませんでした。

ディスカッションも当たり障りの無い、教科書どおりの内容で終わってしまい、残り時間は雑談といった感じでした。

そこで、後日西部地域防災局局内での研修では、市民編を用いてゲームを行い、活発なディスカッションを行うために、ポイントを如何に多く採るか（裏をかくかどうか）という方法にしました。（金座布団５P、青座布団１P）

そうしたところ、金座布団が乱発し、ディスカッションも大いに盛り上がりました。もっとも景品を用意したことも盛り上がった一因ですが…。

いずれにしても、クロスロードは今までの図上訓練などと異なり、参加者が等しく発言の機会が与えられ、自分の考えを発表しなければならないので、個々人の防災意識に主体性を持たせていく効果があると感じました。

当然のことながら、ゲーム性があることで参加者の意識も高揚し、非常に盛り上がりました。

私自身クロスロードの経験は浅いですが、今まで実施してきた感想として、参加者の経験や知識に左右されない防災教育ツールであると感じました。

余談ですが、局内の研修では同率一位が出てしまい、勝負を決するために「一位の景品を相手に譲るか譲らないか」という問題で決着をつけました。

今後の商品改良に役立てば幸いですが、カードを全て名刺サイズにして、名刺ケースに保管すれば、すっきり収まると思いました。（当然ルールブックも名刺サイズで）

そうすれば、何時でも何処でもクロスロードが出来ます。

おまけに、カードの表面（裏面？）が居住地域のハザードマップ（又は白地図）になっていれば、子供はパズル、大人はDIGが出来ます。

（静岡県西部地域防災局　小林　哲さん）

各班での検討の様子↓

事務局より

右に紹介しました看護編とともに、次のページで紹介いただいた教員編、静岡大学版、検討途上の東海地震編と、静岡県のみなさまからは多くの新作問題をお送りいただいています。今号ではページの制限から一部しかご紹介できませんでしたが、次号で大々的にご紹介する予定です。どうぞご期待ください。

また、インターネット上での資料共有システムも順次更新していく予定です。こちらもよろしくお願いします。

春はもうすぐ！
新しい年度に向けて
この先の道は右?左?

クロスロード教員編

静岡県では県内４つの地域防災局（東・中・西・賀茂）に、教員が一人ずつ派遣されており、学校現場への支援を充実させています。このため、地域防災局への講師派遣依頼も多く、職員の防災研修会や児童・生徒の防災教室等へ出向いています。防災講話だけでなく、災害図上訓練「ＤＩＧ」やクロスロード等を研修の中に取り入れながら、参加型の防災研修も行っています。

今回は、県立静岡北養護学校清水分校の職員研修で、クロスロードをアレンジさせていただいた「教員編」を使いました。

県立静岡北養護学校清水分校では、職員の防災意識の向上のため平成19年1月31日に防災研修が開かれました。講師は当局職員が務め、内容は、前半には「東海地震の現状と想定される被害」と題して防災講話を行い、後半は「クロスロード（教員編）」を行いました。

先生方はクロスロードを初めてやるということで、ゲームの進め方を説明してから、各グループで進めていってもらいました。ゲーム説明の中で、カード№10「～あなたはクラス担任～　通勤途中、学校を目前にして大地震発生。周囲では木造家屋が倒壊し、火災も発生している。学校も気になるが、自分の家族の安否も気になる。電話は不通で自宅に連絡が取れない。あなたは自宅へ戻る？」を取り上げ、全員に対してＹＥＳ（自宅へ戻る）、ＮＯ（学校へ行く）の選択を挙手で行いました。今でもその場面を覚えていますが、その時先生方は顔を見合わせ、首を捻りながら非常に迷って手を挙げていました。ＹＥＳが数人、ＮＯが多数でした。私から「本音と建前では選択が違うかもしれませんが、ぜひ本音の部分で議論していただきたい。」とお願いをしました。

実習開始。問題カードを7グループ（1グループ5名）それぞれに配布し、グループごと問題を読み合って進めていきました。今回はＹＥＳ、ＮＯカードで自分だったらどうするかを選択し、カードを一斉オープンする方法をとりました。

同僚ということで先生方は本音を出し合い、楽しみながら（ゲームとして）行っていました。この研修会を見ていて、普段、子供達の指導や教材の準備が忙しく、職場でじっくり防災に目を向ける時間がない中でも、あらためて防災についてじっくり考える機会を作ることは必要であると感じました。先生方からいただいた感想からも、同じように感じてくださった方がいるようです。災害時には今まで考えてもみなかったことが起こり、その事象に対して自分のとるべき行動を時と場面に応じて決断しなければならないことの難しさを疑似体験できるゲームであるとつくづく感じました。同時にクロスロードをやりっぱなしではなく、その後の「災害への備え」が大切であると再確認しました。

以下、先生方の感想の一部をご紹介します。

・楽しく考えることができました。災害時に考えておかなければならないことをゲームの場でシュミレーションできるのはよかったです。校内には教材や教具、備品等がどうしても多くあり、また可動する作りでないと使いづらい物もたくさんあるため、転倒防止策が難しい。
・ＹＥＳ、ＮＯに意見が分かれる問題が多く、その状況においてどう判断すればよいのかを議論することができた。教職員はできる限りすばやく判断を迫られる場面がある。
・担任という立場で状況を考えるのは、身近なこととして想像できるが、教頭、校長という立場でどう指示を出すかは難しかった。自分の家族と仕事（服務）のどちらを大切にしなければいけないかということは考えさせられる。
・自分の心情と職業的責任の狭間で判断するのに苦しんだ。改めて自宅の安否をどのように確認できるのか…（不安に思った）
・いろいろ考えさせられました。実際にどうなるかはわかりませんが、いろいろな場面を想定しておくことが大切だと思いました。やはり、自分の子供が小学校や保育園に通っているので、（職場の）クラスの子（担任として）ももちろんですが、自分の子（親として）のことも気になります。地震でのパニックにもどう対応できるかとても心配です。
・（教員編という）設定も自分の身になって考えることができ、そして、他の先生方の考えを聞くこともできよかった。

（静岡県中部地域防災局　安藤厚志さん）

防災研修会での議論の場面

春はもうすぐ！
新しい年度に向けて
この先の道は右?左?

クロスロード東海地震編

静岡県といえば、東海地震。クロスロード『東海地震編』の作成が期待されているところですが、「東海地震」とはどのようなものなのでしょうか？

東海地震は、東南海、南海地震とセットで三兄弟の海溝型地震のひとつとされています。これら三つの地震はフィリピン海プレートの沈み込みに伴う一連の震源域でそれぞれ活動を行っており、活動時期等に関連性があると考えられています。これらの地震は概ね１００年～１５０年程度の間隔でほぼ定期的に発生するのが特徴で、発生すると大規模な津波を伴い、甚大な被害を及ぼします。

しかし、「東海地震」は「東南海地震」「南海地震」と異なる特徴があります。その特徴が『東海地震編』の鍵になるはずです。以下にその特徴について考えます。

（１）地震の発生が予知できる可能性がある

東海地震の震源域の半分は陸上にあると考えられています。ですから、海底ではできないような精密な観測ができる部分があり、この部分でプレスリップ（前兆すべり）が発生し、それが観測された場合は東海地震の発生の予知ができるかもしれないとされています。実際、前兆すべりを観測する機器が陸上の各地に設置されており、異常を感知した場合の程度によって東海地震に関する3種類の情報（東海地震観測情報、東海地震注意情報、東海地震予知情報）が発表されることになっています。

〔東海地震観測情報〕は観測された現象が東海地震の前兆現象と直ちに判断できない場合などに発表されるもの、〔東海地震注意情報〕は観測された現象が東海地震の前兆現象である可能性が高まった場合に発表されるもの、〔東海地震予知情報〕は東海地震が発生するおそれがあると判断した場合に発表されるもので、それぞれ信号の「青信号」「黄信号」「赤信号」にたとえられています。

このそれぞれの段階において、行政が行う対応、住民が行う対応が地域防災計画等に示されていますが、①情報体系自体の持つ問題（東海地震予知情報が発表されると「警戒宣言」が発令されるが、その後地震が起きなかった場合、いつ解除されるのか？等）、②それぞれの段階の意味についての啓発不足・住民の理解不足、③それぞれの段階における社会的な対応の矛盾等さまざまな問題が残されています。

（２）被害が広範囲にわたる

想定される東海地震が発生した場合、静岡県のほぼ全域が震度6弱以上の揺れになると考えられています。想定される人的被害は最悪のケース（冬の朝5時、予知なし）では死者六千人弱と考えられていますが、これには観光客等が被害に遭うことの想定が含まれていません。静岡県のほぼ全域（とその周辺）に甚大な被害が出ると思われているのですが、具体的にどのような事態が発生し、それに対してどのような対策が考えられるのか、きっと私たちの想像している以上のことがおきると思います。兵庫県南部地震や新潟県中越地震の貴重な教訓をそれより遥かに広域にわたる災害にどのように活かしていくべきなのか、難しい問題です。

話はそれますが、震源域が陸に非常に近い海底に達しているため、大規模な津波がごく短時間に押し寄せることが考えられています。早いところでは地震発生直後から数分の間に第一波が到達すると考えられ、最大のものは高さ１０ｍを超えるとされています。避難のための十分な時間がない状況下でどのような津波対策を行うか、という点も大きな課題となっています。

以上のような特徴が東海地震にはあると考えます。想定される東海地震はまだ発生していませんが、このような特徴を活かした『東海地震編』を作っていきたいと思います。

最後に検討中の東海地震編から一問。『あなたは2児の母親です。昨夜、東海地震観測情報が発表された。学校では観測情報のときはそのまま授業を行うことになっている。中学2年の長男と、小学4年の長女を登校させますか？登校させる→YES、休ませる→NO。』

(静岡県東部地域防災局　板坂孝司さん)

クロスロード進級者発表です！

以下の方を中級・上級に認定いたしました。(敬称略)

【中級】	静岡県西部地域防災局	小林　哲
	静岡県中部地域防災局	安藤　厚志
【上級】	呉市総務部安全対策課	森島　和雄
	静岡県中部地域防災局	安藤　厚志
	静岡県中部地域防災局	天野　歌子

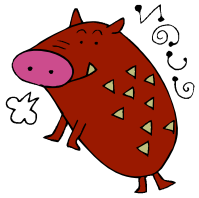
【応募先】108-8345　港区三田2-15-45
慶應義塾大学商学部　吉川肇子研究室内
クロスロードサポーター事務局
電話：06-5427-1251
ファックス：03-5427-1578
メール：kikkawa@aoni.waseda.jp

電子投稿はこちら↓
http://maechan.net/crossroad/toukou.html

ファシリテータ資料共有システムはこちら↓
http://maechan.net/crossroad/common/

春はもうすぐ！
新しい年度に向けて
この先の道は右?左?

こんなところに心理学(10)：パニックを防ぐ魔法の一言



今年は、亥年（イノシシ年）。新年早々、干支に合わせたかのように、各地の里にイノシシが出現。テレビ報道によれば、そのうちの一頭は、可哀想に追いつめられて運動場を行ったり来たり。挙げ句、金網に頭をぶつけていました。彼（女）、さぞかしパニクっているんだろうなあと感じたのは私だけではないでしょう。

ところで、ちょっと固いコトバばかりですが、「反対方向」、「異質」、「感情的喚起」。この3つのキーワード、何のことだか、おわかりですか。正解は、群集パニックが起こりやすい3つの条件なんです。群集については、この連載の第1回でもとりあげましたが、今回は、あのイノシシにちなんで、パニックという角度から群集や避難の問題について考えてみましょう。

不幸にして、花火見物に集まった人びとが群集パニックとなり、死亡事故にまで発展してしまった「明石歩道橋事件」（2001年7月）。この事例をとりあげて3つの条件について説明しましょう。

まず、「異方向」。これは、群集に、1つの方向だけではなく反対方向の流れがあることを示しています。明石の事件も、花火が終了した直後に起こっています。つまり、帰ろうとする人びとと（終了したことがわからず）見に行こうとする人びと、この2つの人の動きがあったことがわかっています。

次に、「異質」。同じ群集でも、毎朝の通勤・通学の人たちって、ものすごい人の数なのに、駅のホームや横断歩道を結構スムーズに歩いていると思いませんか。これは、多くの人が、会社員や学生であり、ほぼ同じようなスピードで歩いている（歩くことを学んでいる）ことと関係します。一方、花火会場にはいろいろな方がいらっしゃいました。大人もいれば子どももいます。高齢の方もいらっしゃいました。性質のちがう人々が混在した群集では、歩行速度や動きに違いがあるために流れに乱れが生じ、混乱やパニックになりやすいのです。

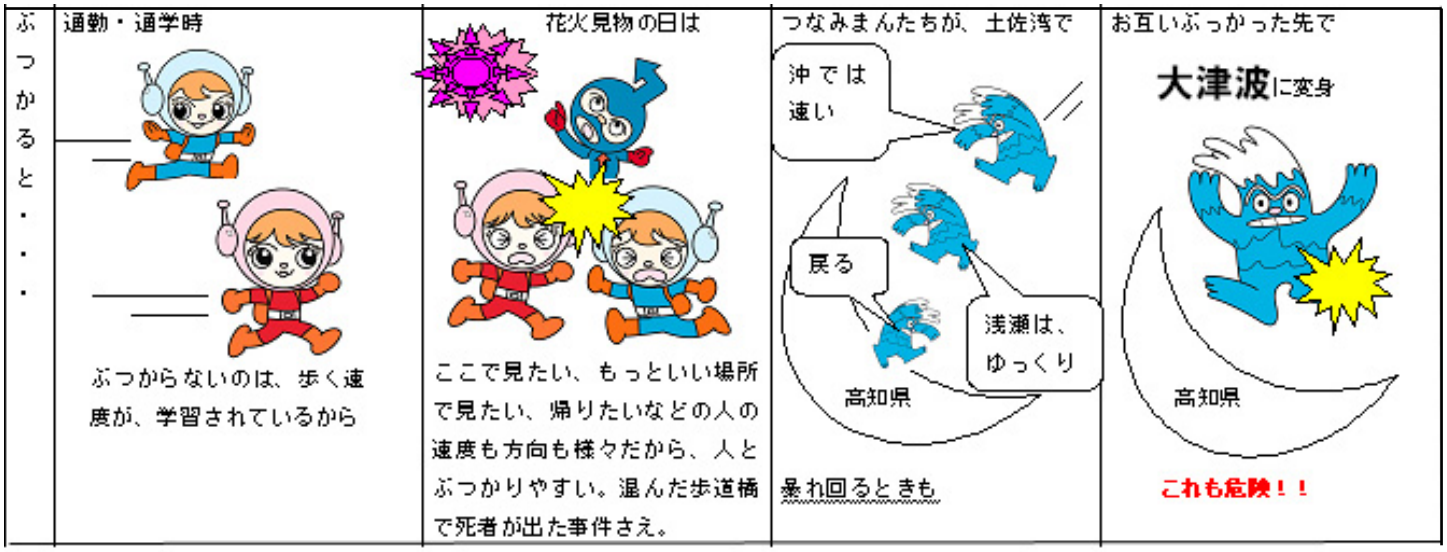
最後は、「感情的喚起」。要するに、「興奮」しているということです。これは、パニックは、人びとが何かを「獲得」しようとするとき、逆に、何かから「逃走」しようとしているときに起こりやすいと言いかえてもいいです。バーゲン会場やアイドルが急に現れたときなどは「獲得」の例、火災など災害からの避難は「逃走」の例です。花火会場でも、「（長く並んでいるんだから）ぜひ花火を見たい」という「獲得」の心理が働いていたと言えます。

大切な点は、3つの条件を少しでも減らすことが、パニック防止につながるということです。たとえば、建物からの避難誘導を考えるときは、人の流れができるだけ一方向になるように避難路を設定したり誘導したりすることが大事になります。また、子どもや高齢者、車椅子の方々などに先に避難してもらうという工夫は、性質の異なる人々が混在しないようにする点からも大事であることが分かります。

最後に、興奮を静めること。1982年に羽田空港沖に墜落した航空機の機内では、あるスチュワーデスの「落ち着いてください、この飛行機は沈みません」（彼女は以前から機体というものはそうすぐに沈むものではないことを聞かされていたそうです）という一言で、多くの人が冷静さを取り戻したと言います。避難誘導にあたる方は、自分の気持ちを落ち着かせる意味でも、まず大きな声で「落ち着いてください」。この一言です。

ぶつかると・・・

©やなせたかし



春はもうすぐ！
新しい年度に向けて
この先の道は右?左?

クロスロード静岡大学版

2006年10月21日と11月9日の2回にわたり、静岡大学にて「クロスロード静岡大学版」を実施しました。このうち10月のものは授業の一環として教育学部の30名の学生に、11月のものは静岡大学全学防災訓練の一環として、その日に授業中の全学生を対象として実施しました。実施時のアンケート回収集は、それぞれ30名と903名です。

静岡大学版は主人公を学生に設定した問題を多く用意し、静大生に東海地震への危機意識をもってもらえるような作りにしました。ルールは時間の制約があったため、ゲームの進行係が問題を読み上げて時間を区切って進めていく方法をとりました。実施した問題の１部を下の表に紹介します。

アンケートを集計した結果、「ゲームは楽しかったですか？」「ゲームは有意義だったと思いますか？」「防災への理解は深まりましたか？」「一つの問題に多様な考えがあると感じましたか？」という４つの質問に対し、いずれも好印象の回答が多数を占めました。

しかし、進行係（授業担当者）の声がよく聞こえなかったり、ゲームがスムーズに進まなかったりといった実施状況があまりよくなかったとみられるグループのアンケートでは、「危機感を感じられなかった」「目的がよくわからなかった」などの不評が目立ちました。また、約30分間という制約下での実施となった静岡大学防災訓練時のアンケートには、全体的に「時間がもっと欲しかった」という意見が多く、充実したゲーム内容にするには、予備知識のある進行役とゲームの趣旨説明、十分な時間配分が必要不可欠であることがわかりました。

しかしながら、感想中に「他人の意見を聞くことで他の角度から物事を見つめることができ、視野が広がった」「自分の考えを整理し、他者の考えを吸収する柔軟な姿勢を養うことができた」などの意見が多かったことから、クロスロードの目的である「リスク環境下での問題解決には多様な視点が存在していることに気付いてもらう」は果たされたと思われます。

また、アンケート中にクロスロードの新問題を考えてもらう項目を入れたのですが、教育学部生には主人公を教師と設定する人が多いなど、約１割の人が将来自分のなりうる立場に意識が向いていました。感想でも、「設定がもう少し身近な方が良い」「自分が将来なりそうな立場で考えたかった」というような意見があり、近い将来の自分にとって役に立つ問題を求めている人が多いことがわかりました。

2006年11月19日の「クロスロード・ファシリテータの集い」の際にも話題に上っていましたが、明確な正解を求める人や、Yes/Noの二択では決められない人、そもそもこんな状況には自分はならないと考える人も多く存在しました。このような意見を持つ人々のために何らかの対策を練るべきと感じました。

以上、大局的にはクロスロードは今回参加した学生の大半に好評で、防災に関する視野の広がりをもたらす上で貴重な体験になったと評価できます。今後は、挙げられた課題の解決方法を探っていきたいと思います。

（静岡大学教育学部総合科学教室　小柳優里さん・小山真人先生）

問題例
（はたして、学生さんの回答はイエス?ノー?）

あなたは･･･	基本設定	YES	NO
静大生	朝起きたら東海地震観測情報が発表されたとのニュース。しかし、今日は大学の試験期間中。しかも今日の試験を落とすと卒業が危ない。大学に行きますか？	大学に行く	行かない
静大生	東海地震注意情報が発表されたため、大学は休講になった。しかし、バイト先の店舗は平常通り営業している。バイトを休まず働きますか？	働く	当分休む

クロスロードの回答結果で適性診断が可能に！(未来予測)

クロスロード」には、ふだんご活用いただいているゲームバージョンとは別に、「質問紙バージョン」があることについては、「クロスロード新聞」でこれまでもご紹介してきました。読者のみなさまの中にも、回答にご協力をいただいた方が大勢いらっしゃいます。あらためてお礼を申し上げます。

これまで、いくつかの設問について、項目ごとに、YESとNO、どちらの意見が多数派なのか、あるいは、男女や年齢によって回答傾向に違いがあるのか、といったことに関する集計結果についてご報告してきました。しかし、「質問紙バージョン」のいいところは、一度に多くの項目についてご意見を聞けることです。皆さんはこんなことを考えたことはありませんか。「指定避難所でない庁舎に避難している人は他の場所に移動してもらう」（神戸編1012番）と答える人は、「受け入れ体制が整うまではボランティアを受け入れない」（神戸編1029番）と判断するだろうなあ---たとえば、こんなことです。なぜなら、両方とも、規則できまったことは規則とおりに運用しようという発想にもとづくものですから。

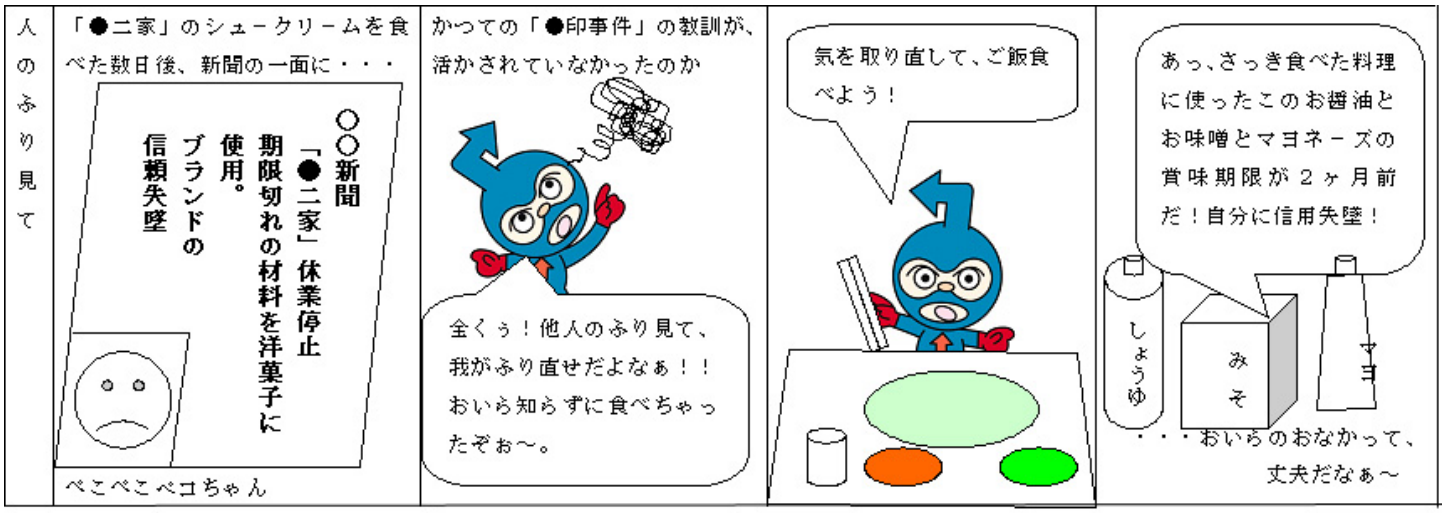
つまり、人は、多くの項目（ジレンマ）を個々バラバラに考えるのではなく、一定の枠組みとか基本方針とかを念頭に回答しているはずなのです。今回の分析は、そんな枠組みや基本方針として、どのようなものがあるのかを探るためのものです。上に例示したもの以外にも、たとえば、「公（仕事）と私（家庭）のどちらを優先するか」、「短期的な利益と長期的な利益のどちらを優先するか」、「人情（感情）と合理性のどちらを重視するか」といった枠組みが考えられそうです。また、こうしたことがわかれば、将来的には、たとえば、「復旧期よりは緊急期対応に向く人」、「住民と考えの近い人」といった形で危機管理に対する自己診断や適性診断をすることも可能になってくると考えています。

さて、今回は、ちょっと複雑な分析方法を使いました。その名も、「数量化Ⅲ類（パターン分類の数量化）」と言います。少しばかり込み入った統計分析なので、ここでは、細部には立ち入らずに、その結果だけを簡単に図式化してお示ししましょう。第1ページの図を見てください。図の中に、クロスロードに含まれるいくつかの項目が並んでいます。ほんとうはもっと多くの項目が並んでいますが省略しています。また、一部独自に加えた態度診断項目が入っています。

この図で近い場所に位置している項目は、その回答傾向が類似していることを示しています。たとえば、図の左のほうに、「余剰物資焼く」と「運動場使わない」が近接して位置しています。これは、「余った援助物資の毛布を焼くか」（神戸編1003番）にYES（焼く）と答えた人は、「公立学校の運動場に仮設住宅を建てるか」（神戸編1010番）にはNO（建てない）と答える傾向が強かったことを示しています。周囲に位置している別の項目の内容もあわせて考えると、どうやら、今ここでの利益や効率よりも将来的な利益や評価を先読みして考えるという態度がそこには共通してありそうです。

こういったことをすべての項目について検討していった結果として、図に示したように、「クロスロード」の設問に取り組むとき、回答者の頭の中には、「長期的な利益か短期的な利益か」という基本枠組みと、「他の人を基本的に信頼するか用心してかかるか」という基本枠組み、この２つがありそうだということがわかったわけです。

今後はデータ数を増やしてさらに詳しく分析するとともに、上で述べたように、この結果をベースに、危機管理や災害対応にあたる方々の自己診断や適性検査のためのツールを構築していきたいと思っています。

人のふり見て

©やなせたかし